

論文

幼児期における思考力の芽生えと人間関係の関連性

The relevance of "Appearance of the thinking ability" and "Human relations" in early childhood

谷村 紀彰¹⁾・増田 吹子²⁾

Noriaki Tanimura, Fukiko Masuda

キーワード：領域「人間関係」、思考力の芽生え、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）、育みたい資質・能力（3つの柱）

要旨

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領において、領域「人間関係」は「自立心を育て、人と関わる力を養う」領域であるとされている。かかる要領・指針の解説に「思考力の芽生えは、領域『環境』などで示されているように」とあり、一般に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」における「思考力の芽生え」は領域「環境」に関連すると考えられている。しかし、幼稚園教育要領の保育内容において1990年頃から思考力に関連する言葉が頻出するようになってきていること、特に領域「人間関係」において思考力に関連する言葉が多く含まれるようになってきていることが指摘されている。そこで本稿では、保育者養成で使用される領域「人間関係」テキストや10の姿の解説書を確認し検討を加えることによって、幼児期における「思考力の芽生え」と領域「人間関係」の関連性について考察した。

1. はじめに

1989年の幼稚園教育要領改訂の際に、保育内容がそれまでの6領域から5領域に整理し直され、保育内容に「人間関係」が含まれることとなった。それまでの6領域にあった「社会」の一部が5領域「人間関係」として独立した形になっている。現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領において、「人間関係」は「自立心を育て、人と関わる力を養う」領域であるとされている。

また、2017年の要領・指針の改訂及び改定では、新しく「育みたい資質・能力（3つの柱）」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」が加えられた。育みたい資質・能

¹⁾ 山陽学園短期大学 こども育成学科

²⁾ 久留米信愛短期大学 幼児教育学科

力（3つの柱）に「思考力・表現力等の基礎」、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）に「思考力の芽生え」「豊かな感性と表現」とあり、両方に「思考力」「表現（力）」という言葉が入っていることから、現行の要領・指針において「思考力」「表現（力）」を育むことが重視されていると考えられる。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の解説に「思考力の芽生えは、領域『環境』などで示されているように」とあり¹、無藤（2017）が思考力の芽生えについて「これは領域『環境』に入っているものです」と述べている²ように、一般に幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）における「思考力の芽生え」は領域「環境」に関連すると考えられている。

一方で、増田（2020）は、幼稚園教育要領の保育内容において1990年頃から思考力に関連する言葉が頻出するようになってきていること、特に領域「人間関係」に思考力に関連する言葉が多く含まれるようになってきていることを明らかにしている³。しかし、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の「思考力の芽生え」は先述のように領域「環境」と関連するものとされており、領域「人間関係」との関連は重視されていないといえる。

そこで、本稿では領域「人間関係」の変遷及び現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて作成された幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の解説書や保育者養成校で使用されるテキストの中で思考力の芽生えと人間関係の育ちが同時に見られる場面を整理し、幼児期における思考力の芽生えと人間関係の関連性について考察する。

2. 育みたい資質・能力（3つの柱）と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

保育内容における領域は、1964(昭和39)年改訂の幼稚園教育要領で示された6領域（「健康」「社会」「自然」「音楽リズム」「絵画制作」）であったが、1989(平成元)年改訂により、5領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）となった。領域「人間関係」に関する内容は、それまで領域「社会」において規定されていたものである。1989(平成元)年改訂後は、1998(平成10)年、2008(平成20)年、2017(平成29)年に改訂が行われた。

2017(平成29)年の幼稚園教育要領改訂で、「育みたい資質・能力（以下、3つの柱）」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（以下、10の姿）」が新たに規定された。3つの柱は、「生きる力の基礎を育むため、（中略）幼稚園教育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努める」とし、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性」の3項目が挙げられている。一方、10の姿は、「第2章に示すねらい及び内容に基づく保育活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園終了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するもの」であり、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝えあい」「豊かな感性と表現」の10項目が挙げられている。「思考力の芽生え」については、保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説に記載がある通り、「領域『環境』」との関連性が重視されており、「領域『人間関係』」は、10の姿の「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」の関連性が重視されている。しかしながら、10の姿の「協同性」に関して言えば、

共通の目的をもって協力し合うためには自分自身の考えを相手に伝えることも必要である⁴ため、「思考力の芽生え」と密接に関連し合っていると考えることができる。また、領域「人間関係」の3歳以上の保育に関わる「内容」を見ると、「自分で考え、自分で行動する」「よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する」などが挙げられ、「思考力の芽生え」と密接に関連し合っていることが分かる。確かに、10の姿は個々で育つものではなく、各々関連し合い育つものである。しかし、増田(2020)が言うように、『10の姿』が育つには、『思考力』が育つことが前提・中心にある⁵と考えられる。

3. 人間関係が育つ場面での思考力の芽生え

ここでは、領域「人間関係」のテキストにおける「思考力」の取り扱いを確認する。これは、保育者養成の段階で人間関係と思考力との関係性はしっかりと教授されていないとの認識によるものである。使用したテキストは、無藤隆監修・岩立京子編集代表『事例で学ぶ保育内容<領域>人間関係』萌文書林 2018年、塚本美知子編著『対話的・深い学びの保育内容人間関係』萌文書林 2019年、咲間まりこ編著『保育実践を学ぶ保育内容「人間関係」』みらい 2018年、岩立京子・西坂小百合編著『保育内容 人間関係 (乳幼児教育・保育シリーズ)』光生館 2018年、田代和美・榎本眞実編著『演習 保育内容「人間関係」』建帛社 2020年の5冊である。これらのテキストの10の姿の説明箇所において「思考力の芽生え」について触れられているものはなかった。

しかし、増田(2020)は、領域「人間関係」の中に思考力の芽生えに関連する文言が多く含まれていると指摘⁶している。このことから、領域「人間関係」の事例の中に思考力の芽生えが見られるものがどの程度含まれているかさらに検討を加えることとした。領域「人間関係」の事例を多く扱っているテキストとして、無藤隆監修・岩立京子編集代表『事例で学ぶ保育内容<領域>人間関係』萌文書林 2018年を取り上げ、このテキストに掲載されている事例を分析対象とする。

現行の要領・指針における幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「思考力の芽生え」の説明には「身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる」と記されている。ここから、子どもが「気付く」「判断する」「考える」「予想する」「思いを巡らせる」「試す」「工夫する」「考え直す」等の経験をしている場面を「思考力の芽生えが見られる場面」とした。テキストに掲載されている事例の中で思考力の芽生えが見られる場面がどの程度含まれているかを確認した結果、下記の通りであった。

表 3-1 から、人間関係の育ちの場面の多くで、思考力の芽生えが見られることがわかる。

検討を加えた本テキストの「第2章 乳幼児期の発達と領域『人間関係』から「子どもが一人で活動している事例」と「子どもが複数人で活動している事例」を引用し(筆者による要約)、「思考力の芽生え」の視点から検討する。

表 3-1 人間関係の育ちの場面における思考力の芽生え

章題	事例数	思考力の芽生えが見られる事例数	%
第1章 幼児教育の基本	0	0	—
第2章 乳幼児期の発達と領域「人間関係」	12	8	66.7%
第3章 子どもと保育者の関わり	24	16	66.7%
第4章 遊びのなかの人との関わり	16	11	68.8%
第5章 生活を通して育つ人との関わり	13	8	61.5%
第6章 個と集団の育ち	19	10	52.6%
第7章 人との関わりを見る視点	10	9	90.0%
第8章 現代の保育の課題と領域「人間関係」	0	0	—

まず「子どもが一人で活動している事例」を挙げる。

夜寝る前に母親に本を読んでもらう習慣がある H 男(3 歳 0 か月)は、体調を崩したため先に布団に入っている母親を見て、もう寝る時間だと思い「これを読んで」と選んだ本を母親に持ってきた。困った母親は「病気だから、今日は休みにしてほしい」と言ったが、H 男は「読んで」と泣き出してしまった。H 男(3 歳 6 か月)が 3 歳半を過ぎたころ、同じように母親が体調を崩し布団に入っていると、H 男はその様子をじっと見つめ、ちょっと思案すると本棚に行きお気に入りの本を持ってきて、母親が寝ている横に座り、左手で母親の胸の上を「トントントン」とたたきながら自分の膝の上に本を広げて眺め始めた。そして「お母さん、お熱がある？」と心配そうにのぞき込んでいた。

本事例においては、H 男が心配そうにのぞき込んでいる場面で、自分なりに考えている様子が窺える。母親が熱で寝込んでいる様子を見て、絵本を読んでほしいという自分の欲求を抑え、自分が今までに寝る時にトントントンと胸を叩いてもらっていた経験から今自分がどうすべきか考えている。

次に、「子どもが複数人で活動している事例」を挙げる。

4 人の男児がフープを輪投げの輪にして、1 人の男児が的になり、残りの 3 人がそこにめがけてフープを投げるとい遊びをしていた。初めは、ねらいを定めて、ふんわり弧を描くようにフープを投げ、的になっている男児にフープがうまく入るようにしていたが、早く引っかけたい気持ちが高まってきたのか、投げ方が雑になり、かなりのスピードでフープを投げ始めた。投げたフープは、何度か投げているうちに勢いのよいフープが男児に当たってしまう。当てられた男児が「痛いからやめて！」と大きな声で叫ぶと、はっと、我に帰った様子の他児が、男児のもとにかけ寄り「ごめんね」と謝る。その後、子供たちはどうしたら良

いかを相談し、的となるループを1人が持ち、そこへ向かってフープをゆっくり転がすという新たなルールで再び遊び始めた⁸。

本事例「自分たちで必要なルールをつくることができるようになる」においても、他者が嫌な思いをしていることに気づき、改善策を考え、誰もが楽しく遊べるように思いを巡らせ工夫する様子が見て取れる。

4. 思考力の芽生えの場面での人間関係の育ち

ここでは、10の姿「思考力の芽生え」についての事例が紹介されているテキストを取り上げ、思考力の芽生えの場面での人間関係の育ちについて確認する。対象とする事例は無藤隆監修・福元真由美他編『事例で学ぶ保育内容<領域>環境』及び無藤隆編著『10の姿プラス5・実践解説書』とする。前者は「第8章 幼児期の思考力の芽生え」、後者は「6. 思考力の芽生え」において子どもの思考力の芽生えの場面を掲載している。これらの中で、子どもが下記の領域人間関係の内容を経験している場面がある事例を「人間関係の育ちが見られる事例」とする。

<領域人間関係 内容>

- (1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
- (2) 自分で考え、自分で行動する。
- (3) 自分でできることは自分でする。
- (4) いろいろな遊びを楽しみながら物事やり遂げようとする気持ちをもつ。
- (5) 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しいを共感し合う。
- (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- (7) 友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。
- (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
- (9) よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。
- (10) 友達との関わりを深め、思いやりをもつ。
- (11) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守ろうとする。
- (12) 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。
- (13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

幼稚園教育要領解説書における幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「(6) 思考力の芽生え」の解説には、下記のような例が示されている。

例えば、数人の幼児たちが友達と砂場でゆるやかなV字型に桶をつなげて遊んでいるときに、片方の桶の端からバケツで水を流すと、水がもう一方の桶の方へ上って流れ込むことを発見する。いつもと違う水の流れ方に興味をもち、空のペットボトルをロケットに見立て

て手前の桶に置き、水を流して反対側の桶から飛び出させるという遊びに発展する。なかなかうまくいかないが、「もっとたくさん水がいるんじゃない」「ああ、今度は強すぎた」「じゃあ、少しずつ流してみる」などと友達と考えを出し合い、水の量や流す勢いを変えながら、繰り返し試す。しばらく試した後、バケツ一杯にくんだ水を、初めはゆっくりと流し出し、半分ほど流したところで、勢いをつけて一気に全部流すとうまくいくことを発見する。ペットボトルは水の勢いに合わせて、初めはゆっくりと手前の桶から流れ出し、最後は勢いよく反対側の桶の先端から飛び出す。幼児たちは「やったあ」「大成功」と言って喜び会い、遊びが続いていく⁹。

この例の中で、子ども達は桶に置いた空のペットボトルを水の力を使って飛び出させるという目標をもち、友達と話し合い目標を達成するために工夫しながら活動に取り組んでおり、領域人間関係の内容（４）（６）（８）等を経験していることがわかる。

同様に『事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』『10の姿プラス5・実践解説書』の中で、思考力の芽生えについての事例のうち、人間関係の育ちがみられる事例がどの程度含まれているか整理した結果が表4-1である。さらに、これらの事例の中で人間関係のどの内容を経験しているかを整理した結果が表4-2である。

表4-1 思考力の芽生えの場面における人間関係の育ち

書名	思考力の芽生えの事例数	左記のうち人間関係の育ちが見られる事例数
事例で学ぶ保育内容 <領域> 環境	13	13
10の姿プラス5・実践解説書	2	2

表4-2 思考力の芽生えの場面で見られる領域人間関係の内容

事例	経験している内容	
事例で学ぶ保育内容（領域）環境	8-1 ピーちゃん、これが好きなの？（3歳児）	2,3
	8-2 あおむしアパート（5歳児）	2,3,6,8
	8-3 道具の特性に気づく（3歳児）	2,3,4
	8-4 積み木の片付け（4歳児）	2,3,8
	8-5 ブロックで高いビルを作る方法は？（4歳児）	2,4
	8-6 アイガモのオスとメスに気づく①（5歳児）	6
	8-7 アイガモのオスとメスに気づく②（5歳児）	2,4,6
	8-8 バランスをとるには？（5歳児）	2,4,8
	8-9 貨物列車（3歳児）	2,4
	8-10 「ピタゴラ装置」を作ろう（5歳児）	4,5,6,8
	8-11 リレーの走る順番を考える（5歳児）	4,6,8
	8-12 自分たちだけのかっこいいポーズを作ろう（5歳児）	4,6,8
	8-13 グループで大きな鬼を作る（5歳児）	4,6,8

プ ラ ス 5 の 姿	1	ドングリを転がしたい (3歳児)	2,4,6
	2	プールの壁が崩れて来た (5歳児)	2,4,5,6,8

『事例で学ぶ保育内容<領域>環境』における事例 8-1、8-3 は子どもが一人で取り組んでいる活動の場面である。一人で取り組んでいる活動であっても、「内容(2)自分で考え、自分で行動する。」等の経験をしており、思考力の芽生えの場面で人間関係の経験をしていることがわかる。事例 8-2、事例 8-4～13 及び『10の姿プラス5・実践解説書』における2つの事例は複数の子どもが関わりながら活動している場面である。これらの場面では、思考力の芽生えと共に友達と思いを伝えあったり工夫して協力したりする経験をしていることがわかる。

5. まとめ

本研究によって、領域「人間関係」は「思考力の芽生え」と関連が非常に深いことが明らかになった。しかし、このことについて要領・指針の解説書や人間関係のテキストでは触れられておらず、あくまで、「個別に取り出されて指導されるものではない¹⁰⁾とする10の姿、「各領域に示されている『ねらい』は幼稚園生活の全体を通して幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうもの¹¹⁾とする5領域の総合性、すなわち保育が総合的に展開される中の話に留まるものであった。

また、保育者養成で使用されるテキストや10の姿の解説書を確認した結果、領域「人間関係」のテキストからは人間関係が育つ具体的事例において「思考力の芽生え」の育ちが、領域「環境」のテキストや10の姿の解説書からは「思考力の芽生え」について解説している部分において「人間関係」の育ちが多数見受けられた。つまり、「人間関係の育ち」と「思考力の芽生え」は密接に関連しているといえる。

このことから、保育現場において「思考力の芽生え」を考える際、領域「人間関係」の観点からの育ちをもっと重視する必要があると考えられる。また、保育者養成段階でも領域「人間関係」と「思考力の芽生え」の関連性について積極的に教授することが求められるのではないだろうか。

今回は、領域「人間関係」と「思考力の芽生え」の関連性について考察し、関連が深いことを明らかにした。しかし、前述のように保育は総合的に展開されるため、他の領域と「思考力の芽生え」も当然関連があると考えられる。増田(2020)は、幼稚園教育要領における5領域に含まれる文言の分析から領域「人間関係」と「思考力の芽生え」の関連性を指摘した¹²⁾が、領域「人間関係」の関連が深いことをさらに明らかにするため、他の領域と「思考力の芽生え」の関連性についても検討する必要があると考える。

注

1. 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 64 頁、2018 年
2. 無藤隆『3 法令改訂（定）の要点とこれからの保育』チャイルド本社 35 頁、2017 年
3. 増田吹子「幼稚園教育要領における『思考力』の考え方—保育要領から平成 29 年度版幼稚園教育要領までの変遷—」久留米信愛短期大学研究紀要第 43 号、2020 年
4. 田代和美・榎本眞実編著『演習 保育内容「人間関係」』建帛社 33 頁、2020 年
5. 前掲書 3
6. 前掲書 3
7. 無藤隆監修・岩立京子編集代表『事例で学ぶ保育内容〈領域〉人間関係』萌文書林 45-46 頁、2018 年
8. 前掲書 5 65 頁
9. 前掲書 1 64 頁
10. 前掲書 1 52 頁
11. 前掲書 1 143 頁
12. 前掲書 3

参考文献

- ・青木弥生「保育内容『人間関係』の理解と実践についての一考察 —改訂の変遷を手掛かりとした理解の試み—」松山東雲短期大学研究論集 47 巻 97-105 頁、2017 年
- ・明石英子「遊びを通した子ども理解に関する一考察：領域『人間関係』と幼児期の終わりまでに育って欲しい姿『協同性』に着目して」四天王寺大学紀要 69 巻 445-459 頁、2020 年
- ・岩立京子・西坂小百合編著『保育内容 人間関係（乳幼児教育・保育シリーズ）』光生館、2018 年
- ・咲間まりこ編著『保育実践を学ぶ保育内容「人間関係」』みらい、2018 年
- ・田代和美・榎本眞実編著『演習 保育内容「人間関係」』建帛社、2020 年
- ・塚本美知子編著『対話的・深い学びの保育内容人間関係』萌文書林、2019 年
- ・無藤隆『10 の姿プラス 5 ・実践解説書』ひかりのくに、2018 年
- ・無藤隆監修・岩立京子編集代表『事例で学ぶ保育内容〈領域〉人間関係』萌文書林、2018 年
- ・無藤隆監修・福元真由美編『新訂事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境』萌文書林、2018 年